

六甲カトリック教会

2022

3

No. 603



教会報

シノドス（第16回世界代表司教会議）へ向けての歩みと準備



「世界代表司教会議 第16回総会(シノドス)が2023年10月に開かれます。テーマは『ともに歩む(シノドス的)教会のため、交わり、参加、そして宣教』です。教会にゆだねられた使命に従って福音をのべ伝える教会の刷新のため、それぞれの現場で聖職者、修道者、そして信徒がどのような経験をし、困難に遭遇し、どのように導かれているかという声を、世界中から集めていきます」(カトリック中央協議会ホームページより)

代表司教会議へ、信徒を含めた幅広い意見収集を求めるということは画期的なことだそうです。全世界から広くキリスト者の声を聴きたいという、フランシスコ教皇の並々ならぬ決意が込められているように思います。

教区から司教協議会への意見書の提出期限は2022年6月4日で、それまでに、小教区単位での意見収集をします。六甲教会では小教区評議会のメンバーを中心に11の小グループを作り、それぞれ分かち合いを行うことになっています。4月30日までにそれを大阪司教区へ提出します。このための「テーマ別要点」と「基本的な質問群」が示されていますので、それを軸に意見収集作業が行われる手筈です。

教皇庁から投げかけられた大きな宿題ともいえるシノドスへの取組みは、小グループのメンバーのみでなく、ひとりひとりの信徒にとってふり返りの大きな機会であると言えます。主日ミサのあと、アルフレド主任司祭がおっしゃったように自由でオープンな論議と分かち合いが期待されます。(編集部)

写真はバチカン宮殿と広場

シノドスのための祈り

聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、
あなたのみ名によって集います。
わたしたちのもとに来て、とどまり、
一人ひとりの心にお住まいください。
わたしたちに進むべき道を教え、
どのように歩めばよいか示して下さい
弱く、罪深いわたしたちが、
一致を乱さないよう支えてください。
無知によって誤った道に引き込まれず、
偏見に惑わされないよう導いてください
あなたのうちに一致を見出すことができますように。
わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、
真理と正義の道を迷わずに歩くことができますように。
このすべてを、
いっどこにおいても働いておられるあなたに願います。
御父と御子の交わりの中で、世々としえに。
アーメン。

2021年度第4回小教区評議会議事録（要約）

日時 2022年2月6日 13:00～15:00 場所 第1・第2会議室

出席者 アルフレド主任司祭、中村神父、西田議長、三垣・宗行両副議長 大上・増田両書記 財務部、典礼部、社会活動部、施設管理部、広報部、教会学校、婦人会、各コーディネータ

主任司祭の挨拶

アルフレド主任司祭が転任、復活祭後に山口教会へ

大阪教区ではミサを中止している教会もあるが、六甲教会はなんとかミサを維持している

2月13日の予定の「祈りと音楽の集い」は延期

協議事項

- 1) 2022年度年間行事予定表はA4版に拡大、2月中に印刷する。余白に「六甲教会の祈り」を入れる
- 2) 次期評議会役員、評議員の人事について
- 3) 第16回代表司教会議（シノドス）に向けた意見聴取への協力について
説明書と質問表が教会に届いている、信徒のみなさんに分かち合いに参加してほしい
具体的には小教区評議会のメンバーが中心となって小グループを作り、分かち合いの機会をもち、協議、意見を集約して提出。3月6日の小教区評議会に中間報告、まとめは3月中旬の予定

報告事項

- 1) 新年会に代る記念品（瓦煎餅とカレンダー）は年末年始のミサで配布した。
次回（第5回小教区評議会）は2022年3月6日（日）13:00より 以上

3月主日ミサのグループ別時間割（10:00, 11:30）

その他の時間（土曜日18時、日曜日7時半）は地区を問わず与れます。

尚、コロナ感染状況によりミサの時間については教会の最新の情報にご注意下さい

6日（日）	10:00	第1グループ	27日（日）	10:00	第2グループ
	11:30	第2グループ		11:30	第1グループ
13日（日）	10:00	第2グループ	第1グループ	灘北1・北三田、灘北2・ 阪神、灘南・神戸西	
	11:30	第1グループ			
20日（日）	10:00	第1グループ	第2グループ	灘西・中央、東灘北1、 東灘北2・芦屋、東灘南	
	11:30	第2グループ			

聖週間を迎える これからのミサ（四旬節から聖週間まで）予定

3月 2日（水）灰の水曜日（大斎・小斎） 灰の式が行われる

3月 6日（日）四旬節第1主日

3月 13日（日）四旬節第2主日

3月 20日（日）四旬節第3主日

3月 27日（日）四旬節第4主日

4月 3日（日）四旬節第5主日

4月 10日（日）受難の主日（枝の主日） 主のエルサレム入城 聖週間に入る

4月 14日（木）聖木曜日 主の晩さん

4月 15日（金）聖金曜日 主の受難

4月 16日（土）復活の聖なる徹夜祭

4月 17日（日）復活の主日

アルフレド主任司祭が転任されます

2月10日付大阪大司教区の発表によると、アルフレド神父さまは教区から転出、山口教会へ赴かれます。8年余にわたり、六甲教会主任司祭としてつとめられました。達者な日本語を話され、こまめに行動されました。小教区評議会の運営や典礼に種々の改良や工夫をこらされ、聖堂にモニターを設置するなど教会設備の改善にも力を入れられました。アルフレド主任司祭の後任には東京・聖イグナチオ麹町教会から英隆一郎神父が来られます。新旧のお二人には改めて、教会報紙上でもご挨拶をいたたくつもりです。

おわび

2月号の新成人祝福式の記事中、写真が左右反転したものを掲載してしまいました。関係者の皆さまにご不快な思いをさせてしまったこと深くおわびを申し上げます。まことに申し訳ありませんでした。ここにもう一度正しい写真を掲載させていただきます。

(広報部)



春の墓参について（墓地委員会より）

コロナの収束が完全ではありませんので、3月13日の春の墓参はひきつづき納骨式のみになります。一般の墓参はご遠慮下さいますようお願いいたします。

日時 3月13日（日）10時ミサ後 参加者は納骨式に出席される親族のみ

今月の聖人 フランシスコ ザビエル

フランシスコザビエル（1506～1552）は1622年3月12日に列聖されました。ことしは列聖400年の記念の年です。ザビエルは日本にキリスト教を伝えたことで有名ですが、彼の生涯は波乱万丈、また没後も数奇なエピソードに事欠きません。ザビエルはスペインバスク地方の貴族の生まれ、パリ大学で学びその留学中にイグナチオ・ロヨラと出会い、のちにイエズス会の創設メンバーの一人として重要な地位を占めます。イエズス会は世界宣教をめざし、インド、マラッカから日本の鹿児島に上陸。平戸、大分、山口、堺などを巡り、ついに京都へ。朝廷にも謁見します。当時の権力者織田信長は国内の布教活動をゆるし、キリスト教は日本各地に広がりつつありましたが、のちの秀吉、徳川の世では厳しい禁制下におかれ、ザビエルの思いは完全には実らなかったこととなります。ザビエルはその後中国へ渡ろうとしますが、思いが遂げられず生涯を終えます。ザビエルは埋葬される際に右腕を切り取られ、その際、死後にもかかわらず鮮血がほとばしったとの伝説があり、ザビエルの右腕はローマのイエズス教会に納められているとか。掲げた肖像画は神戸市立博物館蔵の有名な絵（池長コレクション）で人物はザビエルとされています。（詫 洋一 記）



趣味百景

フラダンス(フラ)

岩田 聖代

ルーティンに追われる以上にストレスがかかる昨今、改めて言うまでもなく、趣味は一服のお茶のように、安らぎと癒し、生きがいをもたらしてくれます。私の趣味は「フラ」。全然年季がはいっていません。新型コロナウイルスが初到来の少し前に入門しました。入りたての頃は、ほぼ毎日曜日ごとにイベントがあり、先輩たちは練習に余念のない日々でした。それがあつという間に緊急事態宣言。三密を避けることやマスクの着用、消毒やワクチンが叫ばれ、イベントはおろか練習も中止、謹慎の日々が始まったのはご承知のとおりです。

年代を問わず、手軽に始められ、衣装や小物による非日常性、軽い有酸素運動、新しい仲間とおしゃべりや交流等々、その効能はいくつもあるのではと思います。少しでも興味を持たれたら、近くの教室を訪れ、始められることをお勧めします。

歌、踊り、祈りがミックスしたハワイ独特の、総合芸術である「フラ」には「フラ・カヒコ」と「フラ・アウアナ」の2種類があります。後者が私たちになじみの深いフラダンスでしょう。19世紀以降欧米の音楽の影響を受けたもので新しいレパートリーが創られ続けています。

聞き慣れない「フラ・カヒコ」は、古来から伝わるもので儀式的・祈禱的側面を持ち、女神ラカに捧げたとも言われています。詠唱(チャント)を伴い、石や竹やイブという打楽器等でリズムを取るとか。最近はこちらも人気があり、教室も増えているようです。

『フラガール』で一躍脚光を浴びましたが、映画で踊られていた激しい振付は(「タヒチアンダンス」)に分類されるのだそうです。なお、「フラ」は、ダンスという意味も含まれているので、近年では「フラダンス」とは呼ばず「フラ」に統一されつつあるようです。

年老いた私でも十分楽しめる「フラ」。家人からは「盆踊りか?」と言われることも…。

写真は昨年11月 BEKOBE でのフラ大会イベント



教会のご近所訪問

春が近づきました。うららかな陽射し、教会からのお帰りのときに少し寄り道してみましょ。今回お訪ねしたのは、音楽ホール&ギャラリー里夢(さとむ)さんです。

教会を出て南へ下り信号を左へ約300メートルほど…。軟らかい色調の建物と看板が見えて来ます。上のフロアはこども英会話教室になっています。地下への階段を下り、ドアを開けるとそこはこじんまりしたホール。正面のステージにはグランドピアノ、音響、照明機

器も完備して、80㎡ほどの客席フロア、最大80人ほどのお客様を収容出来ます。音楽、演劇、バレエなどのレッスン、ミニコンサート、講演会、また壁面を利用しての展示会も出来ます。簡単な調理器具もありますので、茶話会も可能です。教会のお仲間で、なにかの機会に利用された方もあります。この3月の20日(日)21日(祝)には「おけいこマッチング」という会が開かれ、お稽古ごとの先生と習いたい生徒との面談や実技見学が出来る催し物があります。オーナーでマネージャー兼務の平田典子さんは、なんでも優しく相談に乗ってくれます。楽器を演奏したい、声楽をレッスンしたい、展示会をやりたい、などとお考えの方は一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

曾和町1-4-2 <https://www.satou.jp/>



写真は建物外観とホール内部

新たな門出をまえに

うらかな春の陽気はまだ先のことと思われても、春はうれしいことにもう始まり、もう身近に潜んでいる。登り坂で寒風が吹きすさび身体が押し戻されそうに感じる時にも、ふと見上げると白い梅、紅い梅が咲き始め、何と桜のツボミさえほころび出しているではないか。まだまだ寒波の揺り戻しが幾度もあったとしても、冷たい氷雨が降り止まぬ日があったとしても、春の到来を揺るがせ遅れさせるものはもう無い。

この時期になると決まって、カトリック新聞はほとんど毎週、各司教区の司祭異動を掲載する。また私たちの身内や知人が、入学や就職のためにイエモトを離れ、あるいは結婚を機に未知の生活に踏み出し両親に別れを告げようとしている。春はこうして親しんだ者との別れの時、先行きへの不安を抱えつつも新たな門出の時、未知なる明日への挑戦の時でもある。それならばこそ、今まで戴いた数々の恩愛を感謝し、彼らがイサマシク新天地をめざして出かけ、ほとんどゼロに等しい新たな人間関係を創りだし、はじめて出会う人々との信頼を勝ち取って行けますように大いに祈ろう。数々の思い出を胸に去り行く人、多くの想いを秘めて見送る人、さらにこの教会に新たに加わろうとするフレッシュマンを迎え入れる人々、私たちすべてが心を込めて異動・移動に関わり、新たな変革や出発の機縁にしたいものだ。

司祭は何処で、いつ創られるのか。神学校の共同生活なのか、神学部の学問的な研鑽なのか、あるいは持って生まれた敬虔な資質なのか。いずれも部分的には、正しい答えであろう。しかし本当の答えは、生きた教会との関りを通して、多様で複雑な人間関係

に一喜一憂しながら、また時に褒められ時に貶されながら、時間をかけて司祭は熟成していく。私たちカトリック者にとって、司祭は時に権威的に神の意や神の決定を伝え、信徒にもっぱら服従を強いるかのように思われるかもしれない。このような誤解を招く事例が、いつも幾つかあるのかもしれない。しかしその実、教会や信徒こそが生身の司祭を生み出し、カタチ創り、矯め治している。こういうと何だか責任逃れにも聞こえるが、これは、司祭生活 52 年になる自分の実感である。実に信徒が司祭を創り出すのであって、決してその反対ではない。

人は志を立てて郷関を去り行く、骨をうずめる地はどこであれ構わない。確かにナマミの人間として、数多くの弱さや傷や歪みも司祭にあるにちがいない。その重く苦しい事実を覆い隠す必要はなく、だから司祭が務まると強弁したいほどだ。むしろ神の恵みの偉大さ、惜しみなさ、耐え忍びの幾千幾万をホメ称えようではないか。

「大祭司はすべて、人間の中から選ばれ、罪のために供え物と生け贄を捧げるように、神に仕える役に任じられた者である。彼は自分自身弱さを身に負っているのに、無知な迷っている人々を思いやることができる。またその弱さのゆえに、民のためだけではなく自分自身ためにも罪について捧げ物をしなければならない」（ヘブライ書 5 章 1-3 節）。

合 掌



【2022年3月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
			灰の水曜日 ミサ 7:00 10:00 19:00		初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 ◎東灘北2 芦屋	結婚準備セミナー
6	7	8	9	10	11	12
四旬節第1主日 小教区評議会					十字架の道行き 10:00 ◎東灘南	結婚準備セミナー
13	14	15	16	17	18	19
四旬節第2主日 春の墓参 ◎日曜班					十字架の道行き 10:00	
20	21	22	23	24	25	26
四旬節第3主日				定期清掃	十字架の道行き 10:00	
27	28	29	30	31		
四旬節第4主日						

◎は掃除当番地区です。

編集後記

- ◎ アルフレド神父さまが山口教会へ赴かれます。この2年ほどは新型コロナのまん延で、ミサの維持に、感染予防にご苦勞も多かったと思います。山口はザビエルゆかりの町、新たな土地でご活躍されることをお祈りいたします。
- ◎ シノドスへの取組み、私たちの幅広いさまざまな意見が集約されていきます。2023年10月がその到達点のシノドスです。教皇の使徒的勧告が期待されます。

<p>次回4月号の発行は3月26日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAXやメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部</p> <p style="text-align: center;">http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電話 078-851-2846</p> <p>FAX 078-851-9023</p> <p>Eメール renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編集 広報部</p>
--	--